

キリシタン官兵衛と姫路地域のキリシタン遺跡発掘

日下部 愛子, 木原 裕, 池田 武弘, 濱田 敏子, 岡田 教三, 松本 恭子

姫路日ノ本短期大学, 〒679-2151 兵庫県姫路市香寺町香呂 890

<研究目的>

我々は、研究テーマを「キリシタン大名としての黒田官兵衛の足跡と、姫路地域のキリシタン遺跡の調査発掘、及び観光マップ制作」と設定して本研究を始めた。この研究にあたっては、姫路市の政策研究への応募が発端となっている。この政策研究とは、本来学生が、あるテーマで研究して姫路市の政策への提言を行うことを目的としており、本研究はそのために学生主体で進められた。本報告は、その学生を指導する中で生まれた報告書を骨子としている。

姫路城は、1993年に世界遺産に選ばれた。これにより、世界各地から多くの観光客が訪れ大変な賑わいを見せている。更に昨年はNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が放映され、官兵衛ブームと共に姫路は大きく脚光をあげ、一層多くの観光客が訪れている。我々は、これを契機に、官兵衛がキリシタンであり、姫路を中心とした播磨地方が「キリシタン王国」とまで言われ、弾圧時代にも「隠れキリシタン」の遺跡が見られる稀な地域であることを、多くの人に知ってもらい、それが姫路市の観光振興策の一つになると考え、それらの一つ一つの点に関してより深く明らかにするために本研究を始めた。

官兵衛がキリスト教徒になったのは、後述するように1585年前後であり、姫路で活躍したとされるのは4年あまりに過ぎず、キリスト教的な足跡はほとんど見いだすことが出来ない。しかし、官兵衛が姫路を去った後にもその影響力は大きく、ひいては、江戸時代に禁教政策がとられていた間にも多くの隠れキリシタンが存在したという事実を明らかにすることにより、姫路を中心とする地域におけるキリスト教の影響を観光マップに表す形で明らかにしたいという情熱に駆られ、本研究を始めるにいたった。この研究の成果が、姫路を訪れる外国人のためのマップ作りに役にたつことを願っている。

<研究方法>

研究を始めるにあたり、まず黒田官兵衛をキリシタン大名としての視点から調べ、姫路を中心とした播磨地方のキリシタンの歴史も調査することとした。キリシタンに関する資料は主に宣教師によって書かれたものがある [1]。さらに、特に禁教時代を中心として、キリスト教の遺跡の調査をおこなった。最後にまとめとして、本研究の評価を目的として外国人へのアンケート調査を行った。

<研究>



『福岡市博物館蔵』

(1) キリシタンとしての官兵衛について

黒田官兵衛とキリスト教を語るとき、彼に大きな影響力を与え、受洗の手引きをした高山右近について語るどころから始めなければならない。我々は、右近の人となりを知ったのち、彼が大きな影響力を与えた摂津の国に建立されている茨木市立キリシタン遺物史料館 [2] を訪れた。この史料館は、1919（大正8）年、キリシタン研究家藤波大超氏によって発見された隠れキリシタンの集落の中心地域に作られている。有名な「聖フランシスコ・ザビエル像（神戸市立博物館蔵）」が、この史料館の隣に位置する農家の天井裏から発見されたことは、良く知られている。史料館には、ザビエル像（模写品）の他、禁教の時代の間隠し通されてきたイコン、磔にされたキリストの彫刻品、十字架の彫られた墓石などの陳列品の他、遺物が藤浪氏によってどのように発見されていたかや、祈りの言葉を捧げる老婆の様子などを藤波氏が語る映像の鑑賞などができるようになっていた。

右近はスペイン・マンレーシの教会に「モザイク画『ウコンドノ』と凛々しい袴姿で描かれている有名なキリシタン大名であるが、キリシタン禁教令により城を開け渡し、数々の流転の後、マニラに追放され、彼の地で客死した。キリシタンの故に領地も地位も取りあげられた右近は「我命を天に懸け、命を天に任せて名を流すばかりです [3]」と信仰を貫き通した。

官兵衛は若い頃右近に出会い、キリスト教信者となり洗礼をうけた。右近と官兵衛は茶道仲間で交友があった。官兵衛の洗礼には三説あり1583年、1584年、1585年山崎城主になった時との記録がある。洗礼名はシメオン（Codera simeon Quambioyedono）である。

ルイス・フロイスが自国ポルトガルに送った書簡によると「受洗した者のうちには、関白の顧問を務める一人の貴人がいた。彼は優れた才能の持ち主であり、万人の尊敬を集めていた。」と記されている [1]。戦場に宣教師を同行させたり、十字架を立てて戦ったという記録もあるが、時の幕府によってキリスト教禁止令が出されたとき、秀吉の性格を熟知していた官兵衛がキリスト教を捨てたと思われる行動を取ったと考えられていた。実際、現代ではルイス・フロイスが自国に書き送った「日本史」に見られる以外には、官兵衛のキリシタンとしての足跡は全ての歴史から抹消されてしまっている。

しかし、官兵衛が棄教したと言われた後にも、1601（慶長6）年には秋月をキリシタンの隠れ里にする計画で領民千人以上がキリシタンになるといった記述や、宇喜田秀家旧臣のキリシタンをかくまったという記述も伝わっている [4]。

官兵衛は1609（慶長14）年、京都で亡くなっているが、葬儀はキリスト教で行うように、さらに博多に聖堂を建設するように遺言したといわれている [1]。葬儀は盛大に行われ、遺体は船で博多那珂川の岸にあったザビエルゆかりの教会堂へ運ばれ葬儀が行われた [1]。マツス神父回想録には「弟のミゲル（黒田直之）が十字架を掲げ息子のパウロ（黒田尚基）らが松明を持って続いた。」とある。ダミアン（黒田長政）が葬儀を執り行った司祭に礼を述べに行ったり、没後3年に追悼ミサが行われるなど、明らかに官兵衛がキリシタンでなければ理解できない記述も多く残されている。しかし、やがて幕府の権力を恐れた長政らにより、黒田家の一切の書かれたものから、キリシタンに関する記述が抹消され、聖堂も破壊されてしまった [5]。

福岡は、官兵衛の終焉の地である。著者のうち、AKと TH は宮崎宮、黒田家歴代の



『スペイン・マンレーシの教会
右近のモザイク画』

墓所、そして福岡市博物館で行われた官兵衛の特別展等を訪れて、その官兵衛の足跡をたどってみた。訪れた黒田家墓所は静寂に包まれ、歴代藩主のとてつもなく大きく立派な墓に藩主への熱い思いが感じられた。最後にちょうど官兵衛の特別展最終日の福岡市立博物館に入り、展示品の数々や視聴覚の映像を通して改めて官兵衛の人となりを感じることが出来たのは幸せであった。

ところで、官兵衛の刻印の図案は美しく、十字架を囲む「simeon josui」の文字の中で、如水「josui」は彼が棄教・隠居後に名乗ったが、ポルトガル語で「イエズス会員-jeshita」は「ジュズィータ」と発音するとか、また、如水は「ジョシア（ヨシュア）」に由来しているという説もある。「洗礼名シメオン」を刻印に残していることや、キリスト教で葬儀を行ったことから信仰を全うしたことを窺わせる。



『福岡市博物館蔵』

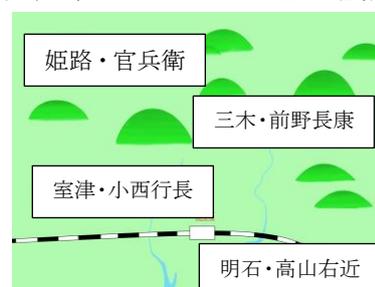
(2) 姫路、播磨地区の「キリシタン」についての調査

① 播磨地方への布教時代

次にキリシタンの歴史をふり振り返りながら、姫路を中心としたキリシタンの歴史について考えてみよう。1549（天文18）年、フランシスコ・ザビエル来日により、キリスト教が日本に伝えられた。ザビエルに続き次々に宣教師が日本を訪れ、各地に教会が建てられた。当初、新しいもの好きの信長はキリシタンを厚遇し、宣教師も保護したので、身分の高い大名・武士の中にもキリシタンになる者が多かったと言われている。

播磨地方を見てみると1551（天文20）年ザビエルが室津に寄港し、1559（永禄2）年には宣教師ヴィレラが室津に、そして1565（永禄8）年フロイスが坂越に宿泊していることから布教の準備が始まったと思われる。本格的な播磨における布教活動は1581（天正9）年に宣教師ロレンソが室津で50人に洗礼を授けたことから始まり、姫路を中心とした播磨地方にはその後信者がどんどん増えていったと言われている。

1587（天正15）年には「播磨はキリシタン王国」とまで言われている。播磨の国には、4名のキリシタン大名がおり、姫路の官兵衛、室津の小西行長、明石の高山右近、三木の前野長康に囲まれ、播磨は彼らに守られるような環境にあったと思われる [7]。



姫路城のサイトより

② キリシタン弾圧時代

秀吉がキリシタンの結束と力を恐れ不信と疑いをもったことで1587年（天正15）「バテレン追放令」を出し、キリシタン弾圧時代が始まった。しかし、姫路では1600（慶長5）年、池田輝政が姫路城主となったが、この頃にはキリシタンの取調べは形式的にしか行われていない。姫路城には輝政が当時使っていた十字架の紋の紋瓦があることから彼が積極的に弾圧はしていなかったことがうなずける。

1610（慶長15）年、大阪から宣教師が播磨を訪れており、当時播磨にはキリシタンが500人いたと言われている。翌1611（慶長16）年には姫路領民信者200人が追放されているが、それらの弾圧にもかかわらず、1625（寛永2）年、姫路

にポルロ神父が住んでいたと書かれた文献があり、彼によって、112名が洗礼を受けたとある。彼は1615（慶長20）年、大阪城にいたが、大坂夏の陣の落城で播磨に移り住んだと言われている。

播磨では、池田氏の治世にはキリシタンへの迫害はまだ少なかったが、本多氏になって激しくなり、本格的なキリシタン弾圧の時代に入る。以後約200年間、播磨におけるキリシタンの存在は、文献から姿を消している。

そして、黒船来航のあと、1863（文久3）年、長崎で最後の大弾圧「浦上四番崩れ」が起きた。このときには、摘発された3400人余りにのぼるキリシタンが、西国各藩に流配され、1870（明治3）年、姫路藩に48人が預けられた。彼らの待遇はさほど過酷ではなかったと言われているが、収容された野里大野の久昌庵で7人が死亡し、阿保村の墓地に葬られ、25人が「転んで（棄教）」釈放され、残る16人は苦難の生活の後、1873（明治6）年に高札が廃止になった後に長崎に返された。同じ頃、岡山藩には117人が預けられ、鶴島に収容された [8]。

ところで今年になって、カトリックの総本山であるバチカンのフランシスコ法王が弾圧に耐えた日本のキリシタンを「信徒の模範」と讃え、近く日本側と資料の共同研究を始める旨の報道がされている。（2014年3月26日朝日新聞より）

③ 隠れキリシタンの時代

隠れキリシタンとは、1587（天正15）年、秀吉のキリスト教禁教令後もひそかに信仰をしていた人たちの総称である。姫路地区の「隠れキリシタン」については、その道の研究をしておられる加西市の全国隠れキリシタン研究会委員長である吉田完次先生が有名であるが、我々は吉田氏を二度訪問しお話を伺った。吉田氏によると、300年に及ぶ間、日本は鎖国によりキリシタンや宣教師がいなくなった状態の中でも、キリスト教を信じる人たちが存在して、明治までの長い期間険しい迫害の中でも、信仰を守り続けていった人たちがいたこと、播磨にも十字架地蔵として知られるようになった遺跡が数多く存在することが明らかになったとのことである [9]。激しい弾圧によりキリシタンは根絶されたかに見えたが、人間として信仰者として全ての権利を奪われ厳しい迫害の中でも信仰を守り通した人々がいたことが明らかになったのである。彼らが命がけで建立していったのが十字架地蔵と言われる一連の遺跡である。十字架地蔵の中には、初期の頃には背中に「十字型」を彫られたものが多かったが、弾圧が厳しくなると十字が「T字」、そして「一文字型」へと変化しながらも建立され続けた。これらの地蔵が信仰の拠り所となっていたと思われる。

先に訪れた茨木のキリシタン遺跡史料館のある地域でも1919（大正8）年に京都大学の研究から多くのキリシタン遺物が発見されている。加西を中心に多くの地域で発見されてきた「十字架地蔵」は一見地蔵菩薩に見えるが、よく見るとガウン（祭服）を着用したミサを行っている神父のようにも見え、背面に十字架のあるものは加西市内では100体以上あるといわれており、姫路周辺でもいくつかが発見されている。吉田氏によると姫路に残留していた多くのキリシタンが厳しい禁教令によって加西方面に移



加西市大日寺十字架地蔵

り、これらの十字架地蔵を建立したものと考えられると言われている。領主の中にはこれらのキリシタン信仰を黙認するものも多く、真面目でよく働くキリシタンへの取り締まりが緩やかであったのではないかと推測されている。また、吉田氏によると、十字架地蔵の発見された場所は加西を中心とした千姫の化粧領地の場所と良く一致しているとのことで、これらの中に何らかの関連があるのではないかと推測されるとのことであった。

300年に及ぶ間「隠れキリシタン」が播磨地方に存在した理由については吉田氏が推測されているように、強靱な信仰心と取り調べが緩やかであったことを理由として挙げられ、信仰を維持するために何らかの信仰組織または信仰共同体が存在したと思われる。取り締まりが緩やかであったと推測できる背景には村請制度が考えられる。何故なら彼等は村社会に組み込まれた共同体で生活する者であり、何代にもわたって信仰を継承できた理由として村の存在を無視できないからである。村全体が信者であったか、村役人が信者であったか、あるいは村請制のもとで多くの者が処罰され、村の崩壊につながる事態を回避しようとしたか、史料が見当たらないために断定できないが、彼らが村社会の抵抗者ではなく、村請制にむしろ従順であったことが「隠れ切支丹」の存在を可能にしたと推測できる。

我々が、初めて加西市の大日寺を訪れた時は雨の日で、雨の中で背面十字架地蔵を見学したが、いろいろな歴史を思う時、大きな感動を覚えた。本来仏像などは前から拝むものであり、背面に彫られた十字架は1972（昭和47）年に発見されるまで静かに時の流れを刻んでいたのだろう。

1965（昭和40）年に学生の杉山正子氏が書かれた「姫路・岡山両藩における浦上キリシタンの研究」という論文が本学にあった [10]。この当時、日ノ本学園高校長・井口仁氏は吉田完次氏と共に異形石仏研究会を発足、研究されていた一人であった。2002（平成14）年に、三俣俊二著「姫路・岡山・鳥取に流された浦上キリシタン」が出版されているが [11]、姫路の史実についての記述は、杉山氏の論文と良く一致していた。本学の資料の中から、この論文が出てきたという事実からも、不思議な導きを感じ、我々も、今後この研究を継承していけたらとの思いを深くしている。

我々は、更に姫路でこれをライフワークとしておられる福西章氏のご協力も頂いて勉強会をしたり、研究資料の提供を受けた [12]。そして、キリシタン禁教時代にも全滅せず、キリシタンとして生きた人々の証としての墓碑を捜す為に、昨年11月、我々は福西氏の案内の下、姫路近辺のお寺やお墓を捜しつづねてまわった。現在までに姫路市が把握しているもの以外にも数箇所十字架地蔵や墓碑ではないかと思われる遺跡を見つけることが出来た：飾磨の薬師寺、新在家本町の観音寺、網干区の善慶寺、香寺町の常福寺、船津町の薬常寺などが知られていたが、さらに薬常寺の地蔵のもう一体の地蔵や、船津町内の墓地にある十字架地蔵、善慶寺内の南無阿弥陀仏が南無阿弥■仏（■ぜつぶつ=こごとへんに色、ゼウス『神』を表すことば）と刻まれている墓碑などである。

これらはあくまで姫路市内のことであるが、加西市にはこのような墓碑や十字架地蔵が多数あり、我々は、姫路から少し離れるけれども、観光MAPの中にこの加西の十字架地蔵なども入れてはどうかと考えている。

実は本校の玄関前にもキリシタン灯籠があり、まるで歴史あるミッションスクールを見守っているかのようである。1873（明治6）年、高札が外されるまで300年余も隠れて信仰を守り通してきた人々がいたという事実は日本におけるキリスト教の歴史上驚くべきことである。

3) 外国人へのアンケート

以上の研究から「キリシタン王国」とまで言われた姫路地区のキリシタンの歴史的意義を考え、これを世界に広く知ってもらふ価値があると思い、外国人にもアンケートを実施した。昨年12月に外国人観光客へのアンケート調査のため、外国人の多く集まる京都と奈良を訪ね、アンケートを行った。語学力不足や自信のなさから初めは声をかけるにも勇気を必要としたが、終盤には積極的にアンケートをとることができた。2日間実施し、断られた方も含めると約100名、うち80名から回答を得ることができた。さらに、今年の1月には姫路城周辺でも2度実施した。

<アンケート結果から見えてきたこと>

京都・奈良では日本を初めて訪れた方が多く、姫路や姫路城を知らない人が約3分の2もあったことはショックであった。これには、持参した姫路城のパンフレットなどを見せると、分かったという人もあったが、黒田官兵衛や隠れキリシタンについて知る人はほとんどいなかった。しかし、中には日本を研究しておられる方もあり、詳しくご存知の方もいらっしゃった。ただ、キリシタン遺跡への興味は高く、アンケートに答えて頂いた約半数の方がクリスチャンであったことから当然のことかも知れないが、44%の人が、もしそのような遺跡があれば訪問したいと答えている。

姫路でも6割が、京都・奈良では7割の方が観光目的で訪れていたが、注目に値する結果として挙げられるのが訪問回数であった。京都・奈良では6割以上の方が日本は初めてと答えているのに対して、姫路では3割以下であった。姫路でのアンケートでは、姫路を訪れたのが初めてと答えた方は約半数で、4割以上の外国人が、2度、3度目、それ以上の回数を訪れていることが分かった。つまり、リピーターが多く訪問していることを意味する。これは、姫路城がそれだけ魅力ある文化遺産であることを証明していることなのかもしれない。

また、アンケート調査を実施して感じたこととして、姫路城が「世界遺産」であることを知らない人が多く、数ある日本の名所旧跡の中で、日本で最初に世界文化遺産に登録された姫路城は別格であることをもっと強くPRすべきであると感じた。これは実際に外国人観光客の方からも指摘された。姫路市の作成したパンフレットを見ると、小さく「World Cultural Heritage」という文字を見つけることができるが、より印象的に目につくようアピールしてはどうかと感じた。京都や奈良では持参した姫路のパンフレットが十分な数ではなかったが、「Interesting」と興味を示され、すぐになくなった。

4) 姫路市への提言

外国人観光客への「キリシタン遺跡マップ」と案内板設置

本学学長が淳心学院理事長マルゴット神父と面談し、この地区の教会マップを頂いたので、私たちの発見したものと合わせて観光マップの作成を試みた。アンケート結果でも、キリシタン遺跡を訪ねたいとの回答が半数近くあったので、このマップを観光案内所などにおいていただければと思っている。また、観光地としての立札や案内板の設置の検討を要望したいと思う。合わせて、本学が姫路で初めてのミッションスクールであり、下寺町に現在も案内板があるが、もう少し目につくように形を変えて設置して頂けたらとお願いしたい。

<おわりに>

今でも全国各地に多くのキリシタン遺跡がひっそりと眠っている状態と思われる。300年もの長い間、キリスト教が禁じられていた歴史の中で、キリスト教の痕跡を示すものすべてを隠さざるを得なかったのは、やむを得ないことであつたであろうが、隠れキリシタンの研究を続けて来られた研究者によって、茨木の地からフランシスコ・ザビエルの肖像画など多くのキリシタン遺物が発見されたように、今後に期待したいと思う。また、播磨地域に多いキリシタンと思われる墓碑も風雨にさらされて解読困難なものもある。文化財の研究と科学の進歩により、これらの隠されたものが一つずつ発見されていくことを切望してやまない。

<謝辞>

この研究に当たりご協力いただいた吉田完次先生、福西章氏、賢明女子学院、淳心学院、姫路カトリック教会に感謝します。

<参考文献>

1. ルイス フロイス著、松田 毅一、川崎 桃太訳（2000）完訳 フロイス日本史、中公文庫
2. <http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/kyoikuiinkaikyoikusoumu/syakaikyoiku/menu/kirisitan/kirishitanraikannannnai.html>
3. 高山右近から細川幽齋に当てた書状に書かれており、石川県七尾市の本行寺にある円山梅雪(まるやま・ばいせつ)の茶室・きく亭の床の間に掲げられている。
「キリシタン大名禁令に翻弄された三人のサムライたち」(DVD)いのちのことば社 2014.
4. 本山一城著 「秀吉に天下を獲らせた男・黒田官兵衛」2014.
5. 井澤洋一著 「福岡藩領内におけるキリシタンの動向と考古資料」海鳥社 2004.
6. ヨハネ・スクルース著 「播磨の切利支丹史」 1986.
中西裕樹編 「高山右近・キリシタン大名への新視点」宮帯出版社 2014.
7. レオン・パジェス著「日本切支丹宗門史」1869.
8. 姫路カトリック教会編:姫路教会史
9. <http://www.amy.hi-ho.ne.jp/kanji/>
10. 杉山正子 「姫路・岡山両藩における浦上キリシタンの研究」 学生論文。1965.
11. 三俣俊二著「姫路・岡山・鳥取に流された浦上キリシタン」聖母の騎士社 2002.
12. 福西章編 「キリシタン遺跡を訪ねて」 2014.
13. 司馬遼太郎著:「播磨灘物語」 講談社 1975.
14. 守部喜雅著: 「天を想う生涯」フォレストブックス 2014.
15. 雑賀信行著: 「キリシタン黒田官兵衛」 雑賀編集工房 2013.
16. 宮崎賢太郎著:「カクレキリシタンの実像」吉川広文館 2014.
17. 吉田完次編: 「官兵衛の道」
18. 津山千恵著: 「織田信長と高山右近」 三一書房 1992.
19. 林 洋海著: 「キリシタン武将 黒田官兵衛」 現代書館 2013.

20. 童門冬二著：「黒田官兵衛」 時事通信社 2013.
21. 福本日南著：「黒田如水」 東亜堂書房 1911.
22. 安藤英男著：「黒田官兵衛のすべて」 中経出版 2013.
23. 神田宏大著：「野崎観音の謎」 文芸社 2008.

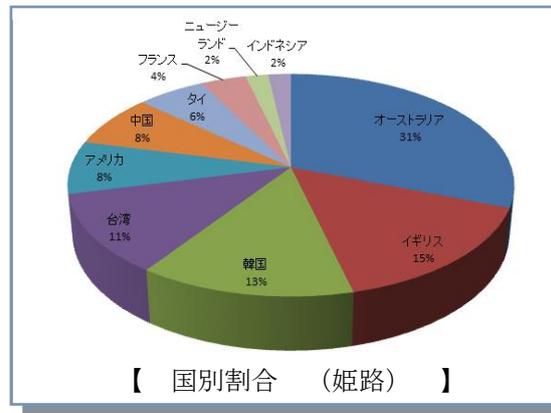
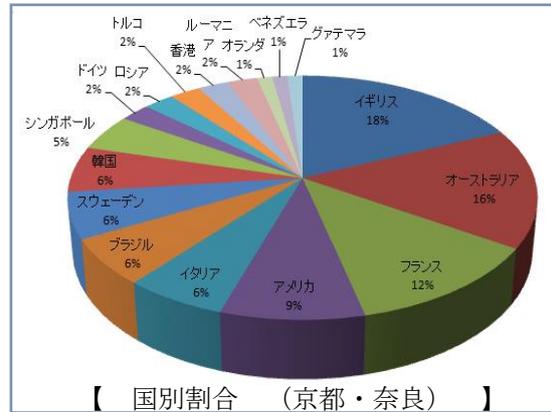
<アンケート>

<p>私たちは姫路日ノ本短期大学の学生です。以下のアンケートにお答えいただけますか？ We are students of Himeji-Hinomoto College at Himeji. Could you answer following questionnaires ?</p>
<p>1. あなたはどの国から来られましたか？ Which country do you come from?</p>
<p>2. あなたの来日の目的は何ですか？ Why did you come to Japan? (ex.) (a) business, (b) sightseeing, (c) others</p>
<p>3. あなたが日本を訪れるのは初めてですか？ Have you visited JAPAN before? Is this the first time to visit? (a) The first time, (b) the second time, (c) more, (d) live Japan (Where?)</p>
<p>3-2. 姫路を訪れるのは何回目ですか？ About Himeji ? (a) The first time, (b) the second time, (c) more,</p>
<p>4. あなたはキリスト教徒ですか？ Are you a Christian? (a) Yes, (b) No, (c) No answer</p>
<p>5. あなたは黒田官兵衛をご存知ですか？ Do you know the name of Kanbê Kuroda who governed Himeji around the end of 16th century? (a) Yes, (b) No,</p>
<p>もし Yes なら If yes,</p>
<p>5-1. あなたは官兵衛がキリスト教徒であったことを知っていましたか？ Do you know Kanbê was a Christian ? (a) Yes, (b) No</p>
<p>6. キリスト教は1549年にザビエルによって初めて日本にもたらされ、急速に広められました。しかし、豊臣秀吉とその後の幕府の人たちは 1593 年以来江戸時代を通じてキリスト教を信じることを禁じました。あなたはこの事実を知っていましたか？ Christianism was first introduced to Japan by Zabel at 1549, and then it was rapidly spread. However, the governer Hideyoshi Toyotomi and his sucessers prohibited Christianism from 1593 to the end of Edo era (1867). Do you know this fact? (a) Yes, (b) No</p>
<p>7. キリスト教は禁じられていたにも関わらず、300年の間、信仰を捨てなかった人たちが存在しました。彼らが残した遺跡（十字架地蔵）が姫路市と近郊に多く存在します。あなたはそのような遺跡を訪問したいと思いますか？ Though Christianism was prohibited at that time, some Japanese believed in Christianism through 300 years. Their memorial monuments, Budda statues with cross on their back, were found at many places near Himeji. Do you want to visit such memorial places? (a) Yes, (b) No</p>
<p>8. あなたは、姫路城の十字架瓦をご存知ですか？ Have you seen the roof with cross at Himeji castle? (a) Yes, (b) No</p>

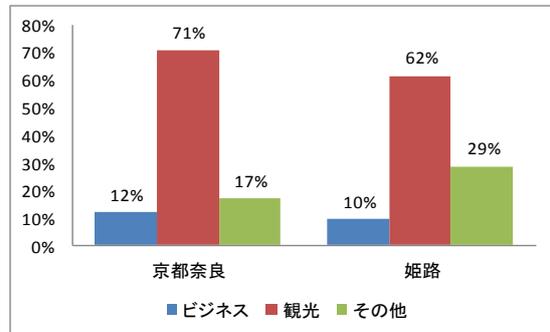
<アンケート結果>

1) どこから来ましたか

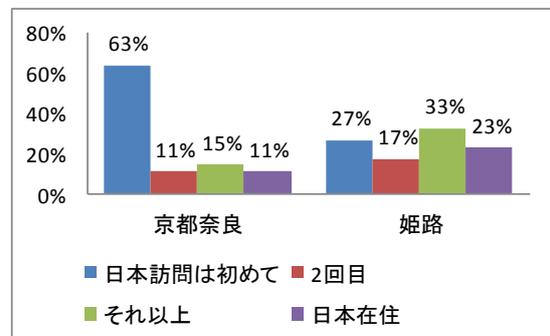
	京都奈良	姫路
イギリス	15	8
オーストラリア	13	16
フランス	10	2
アメリカ	7	4
イタリア	5	
ブラジル	5	
スウェーデン	5	
韓国	5	7
台湾		6
シンガポール	4	
中国		4
タイ		3
ドイツ	2	
ロシア	2	
トルコ	2	
香港	2	
ルーマニア	2	
オランダ	1	
ベネズエラ	1	
グアテマラ	1	
ニュージーランド		1
インドネシア		1
合計	82	52



2) 来日目的	京都奈良	姫路
ビジネス	10	5
観光	58	32
その他	14	15
合計	82	52

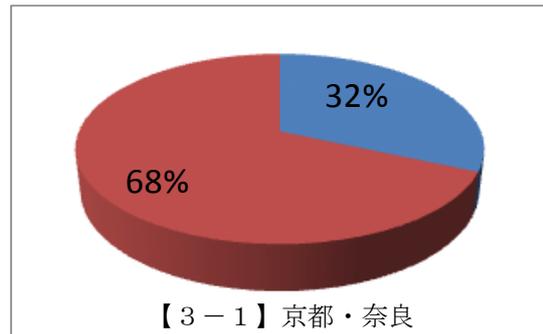


3) 日本は何回目	京都奈良	姫路
初めて	52	14
2回目	9	9
それ以上	12	17
日本在住	9	12
合計	82	52

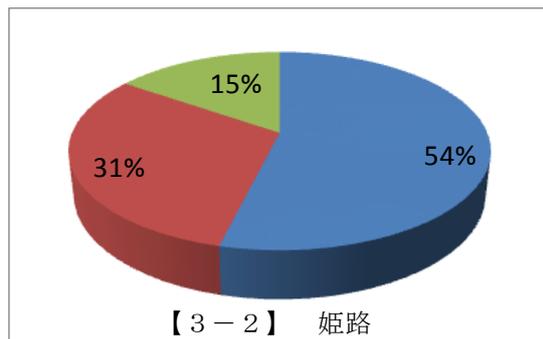


【 3 】 京都・奈良、姫路

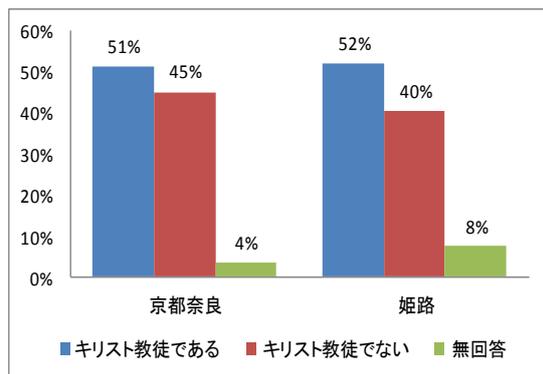
3-1) 姫路(姫路城) をご存知ですか	京都奈良
知っている	32%
知らない	68%



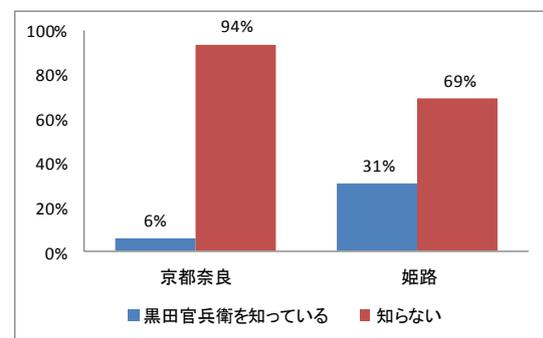
3-2) 姫路は何回目ですか	姫路
初めて	54%
2回目	31%
それ以上	15%



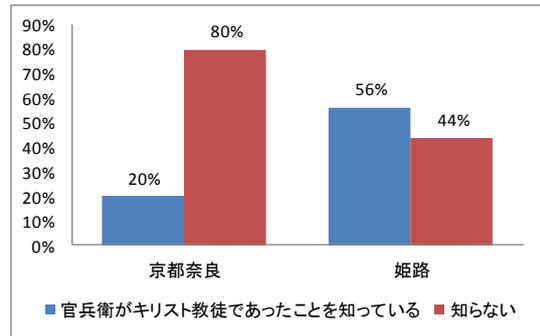
4) キリスト教徒 ですか	京都奈良	姫路
はい	42	27
いいえ	37	21
無回答	3	4
合計	82	52



5) 黒田官兵衛を	京都奈良	姫路
知っている	5	16
知らない	77	36
合計	82	52

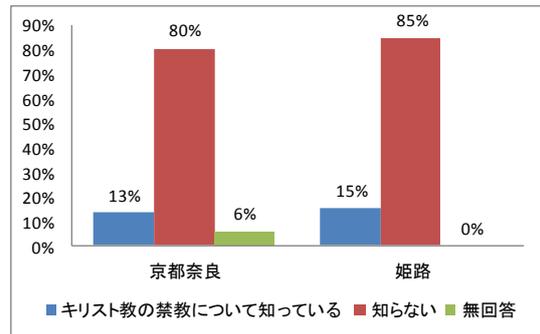


5-1) 5=0 キリスト教徒であったことを知っている			
	京都奈良	姫路	
はい	1	9	
いいえ	4	7	
合計	5	16	



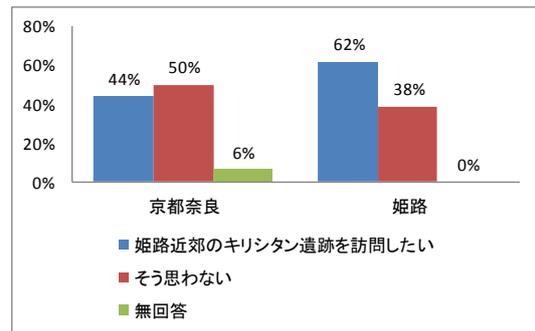
【5-1】 京都・奈良、姫路

6) キリスト教の禁教について			
	京都奈良	姫路	
知っている	11	8	
知らない	66	44	
無回答	5	0	
合計	82	52	



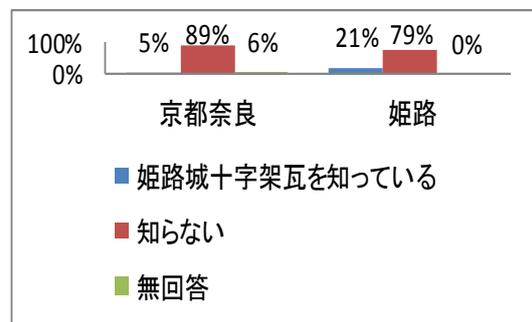
【6】 京都・奈良、姫路

7) 姫路近郊のキリシタン遺跡を訪問したい			
	京都奈良	姫路	
訪問したい	36	32	
そう思わない	41	20	
無回答	5	0	
合計	82	52	

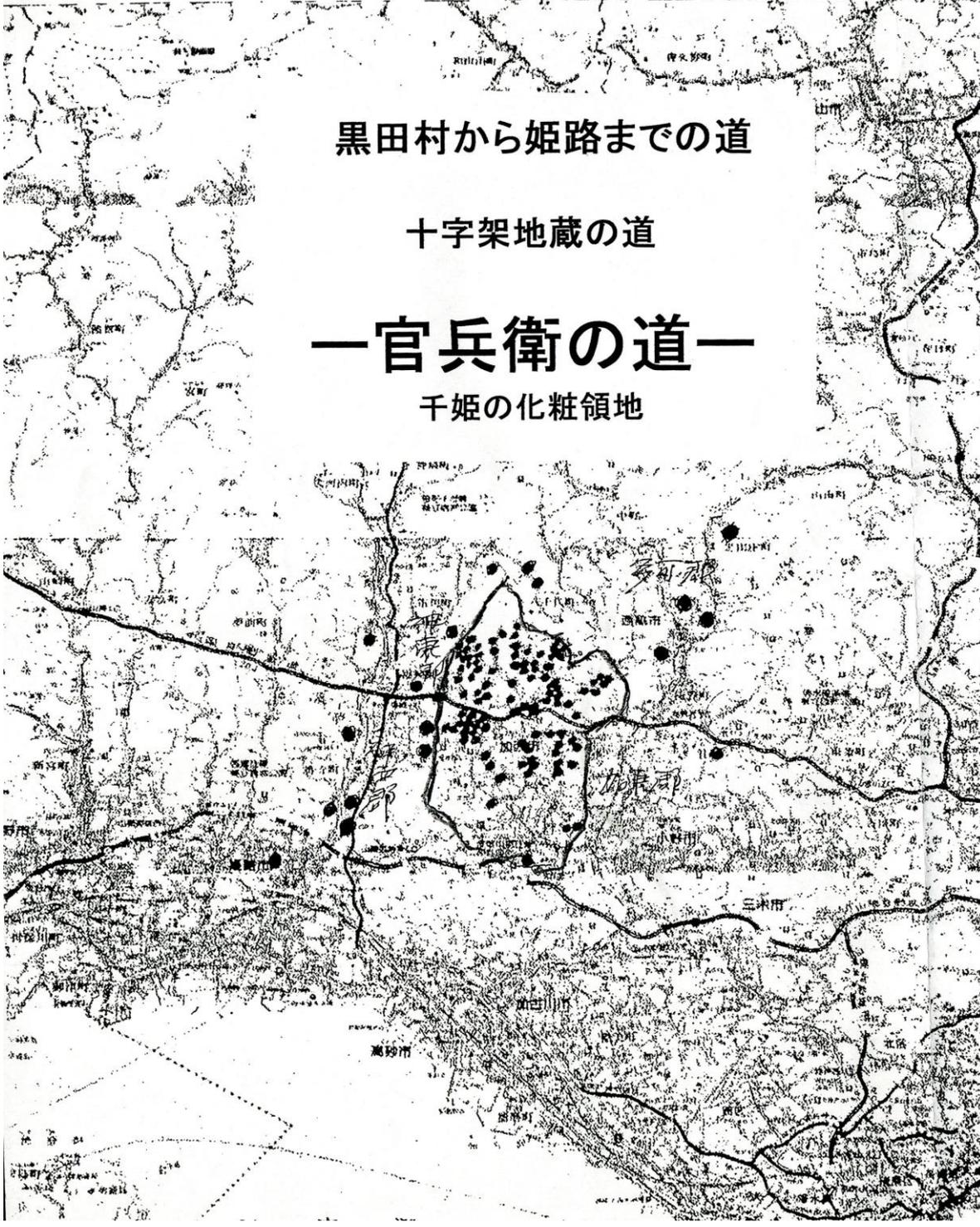


【7】 京都・奈良、姫路

8) 姫路城の十字架瓦			
	京都奈良	姫路	
知っている	4	11	
知らない	73	41	
無回答	5	0	
合計	82	52	



【8】 京都・奈良、姫路



黒田村から姫路までの道

十字架地蔵の道

—官兵衛の道—

千姫の化粧領地

【新たに発見した遺跡】



船津町 薬常寺
背面十字架地蔵

訪問により、右側もそれらしい遺物であることが判明



船津町墓地にある
十字架地蔵



船津町墓地にある會の文字の中央が十字になっている墓碑



網干区新在家 善慶寺
南無阿弥陀仏

ゼウスを表していると言われる文字

陀 → 阨

■ 制作	姫路日ノ本短期大学 ひのたんシメオン研究グループ
	2回生 西垣 皇仁 菅井 巴奈
	1回生 大野 知喜 日和 加代 瓜生田 品子
■ 協力	木原 裕 (日ノ本学園理事長・姫路日ノ本短期大学学長)
	池田 武弘 (日ノ本学園学園長)
	濱田 敏子 (姫路日ノ本短期大学教授)
	岡田 教三 (姫路日ノ本短期大学准教授)
	松本 恭子 (姫路日ノ本短期大学准教授)
■ 研究指導	日下部 愛子 (姫路日ノ本短期大学特任教授・代表者)

【外国人観光客へのキリシタン遺跡マップ】

